

## [第 29 回例会報告]

1. 参加者数：210名（学生会員11名含む）
2. 講演件数：20件
  - 特別講演：2件
  - 特別セッション講演：2件
  - 一般口頭発表：16件
3. 今回の例会を振り返って（運営委員長：石井 久夫 千葉大学）

今回の例会は、分子科学に関連したアカデミック分野を牽引してきた分子科学研究所の後援ならびに大幸財団の援助をいただいて、自然科学研究機構の岡崎コンファレンスセンターでの開催となりました。参加者は210名と多くの方に参加頂きました。ありがとうございました。

今回は、分子研で活躍されている平本昌宏先生、草本哲郎先生に、“高移動度有機半導体を用いた有機太陽電池”ならびに“安定有機ラジカルが示す発光機能”について特別講演でお話いただきました。平本先生からは、現状の有機 EL 材料と異なる“広がった電子系”の可能性、草本先生からは新たな発光材料の可能性に関してお話いただき、次のステージの高性能有機 EL のための興味深いヒントをいただきました。特別セッションでは VR /AR 関連をとりあげ、ソニー株式会社の野本和正氏から VR /AR 応用の観点から要素技術や  $\mu$ LED との比較などについてお話いただき、セイコーエプソン株式会社の深瀬章夫氏からは Si-OLED を用いたスマートグラスに関して講演いただきました。また、ポスター討論では実際のスマートグラスを体験することができ、VR/AR への展開を実感することができました。

一般講演においては、解析/評価、発光機構/デバイス、材料/デバイスといったセッションで様々な報告がなされました。特に、配座構造を考慮した熱安定性の向上や、電子構造に基づいて構造を検討した上で超高速の逆交換交差を実現するなど、理論的なアプローチと組み合わせた材料開発研究の報告が特徴的でした。また、トポロジカル擬縮退を利用した高次三重項経由の蛍光の提案や水素結合を利用した新規電子注入促進法の提案などの新しい提案なども行われ、有機 EL 分野における新しい可能性がまだまだ多くあることを認識することができました。

一方、大学サイドからの講演が多数を占めているという傾向は相変わらず変わっておりません。商品化のレベルが高まるほど企業からの研究発表が減少するのは致し方ないとは思いますが、日本の有機 EL 関連の研究・開発を後押しすることを目的としている有機 EL 討論会としては、アカデミックだけでなく企業サイドからも積極的な発表を得て、‘討論会’の名にふさわしい、アクティブな議論の場にしたいと願っております。

アンケートについては今回42名の方から回答をいただきました。取り上げるべきテーマ、運営上の問題など、頂いたコメントは参考とさせていただきます。運営委員会としては引き続き、有機 EL の最新動向に関連するトピック、及び有機 EL の素子開発や評価・基礎物性などの講演を募って、会員の皆様の研究開発に生かして頂けるような例会を目指していきたいと考えております。よろしくお願い致します。

### 4. 例会プログラム・アンケート結果

<http://www.yuki-tohronkai.jp/meeting-list.htm> : 例会開催一覧

### 5. 例会の写真

<http://www.yuki-tohronkai.jp/photo/meeting/29th/photo-album29.html> : 写真一覧

### 6. 例会不参加の場合の予稿集配布

<http://www.yuki-tohronkai.jp/announce-qanda.htm> : 会員へのお知らせ内”よくあるご質問 “

### 7. 過去例会への投稿閲覧や今回の例会へのご投稿について

- ① ホームページ例会レビューのログイン情報

<http://www.yuki-tohronkai.jp/meeting.htm> ユーザー名 tohron パスワード 1up4t1h7

② 例会へのレビュー

事務局へメールでご投稿下さい。または,facebook グループページ（会員限定非公開）へご投稿下さい。  
（グループページへの登録については事務局へお尋ね下さい。）

8. 次回例会の開催案内（副実行委員長：横山 大輔 山形大学）

第30回例会は2020年6月18日、19日に、東京国際交流館内「国際交流会議場」（お台場）にて開催致します。詳細な開催案内は3月中旬頃に公開する予定で進めておりますので、どうぞ奮ってご投稿およびご参加下さい。

=====以上